

おうちで楽習保育®をやってみよう

みどりのあそび場編



木々や葉は鮮やかに色づき、耳を澄ませばスズムシの声、鼻をかすめるキンモクセイの甘い香り… 四季のある日本ならではの楽しみがより一層感じられる秋は、自然の美しさを五感で受け止めることのできる豊かな季節。そんな季節にピッタリな「みどりのあそび場※」編では、保護者の皆さまからのご質問にお答えしながら、子どもの感性を育てる、身近な自然とのふれあいあそびをご紹介します。



みどりのあそび場とは？

公園や散歩道など、日々の生活から自然を感じることでできる環境すべてを指しています。子どもたちの感性や思考力が育ち、心情を豊かにする体験ができる、楽習保育®における自然環境の総称です。

ママ・パパの悩みに 専門家が答えます！

Q 外に出かけると、目にする植物の名前を度々子どもに聞かれるのですが、知らないものが多く答えられません。どう対応したら良いのでしょうか？ (2歳/男児のママ)

A どうしても「正しい名前を教えてあげないと」と思ってしまいますね。でも多くの場合、子どもは名前を知りたいではありません。「こんなおもしろいお花を見つけたよ!」ということ伝えたいのです。

この「こんなおもしろいお花」のどこが「おもしろい」のか一緒に観察しながらお話してみましょう。例えば「大きいね」とか「どのような色や形?」とか子どもに投げかけたり、ママから「これは●●色だね」とか「●●な形をしているね」などと話したりしてみます。こうして一緒に観察して会話することを通して、子どもたちが草花や自然により一層興味や関心を持ち、言葉で伝えるコミュニケーション力を高める機会になります。

あそびの効果 ● 観察力(物をよく見る) ● 特徴を捉える力

名前つけあそび

~オリジナルの名前をつけてみよう~

名前のわからない、知らない自然物があったら、オリジナルの名前をつけて遊んでみましょう。

1 草花や樹木、昆虫、石など、自然のものを一つ選んでじっくり観察します。



ミニーちゃん♪

みてみて! いまなびきのこ〜

2 色や形、大きさなど、その自然物の特徴を見つけ、オリジナルの名前(ニックネーム)をつけてみましょう!



スマートフォンで写真を撮るように、画用紙で作ったフレームを用意して、身近な自然(草花、虫など)を収めて楽しむ「スマホたんけん隊」も、楽しみながら自然に目を向けるきっかけになります。



キャンプ場など自然の豊かな場所では、実際に植物や昆虫などをスマートフォンなどで撮影しておき、自宅に帰ってから図鑑やインターネットで名前を確認・整理して、「キャンプの生き物アルバム」を作っておくと、忘れられない思い出にもなります。



なまえ? カミキリムシ
じにち? 2022ねん5がつ5か
びしよ? ちばけんキャンプじょう
みつけたひと? ママ
みつけたところ? キャンプじょうのもり



楽習保育®のチャンネルでも、「図鑑しらべあそび」を動画で紹介しています。是非ご覧ください!

「楽習保育チャンネル」で検索! <https://onl.tw/jUq7CpF>

Q とにかく虫が嫌いで触ることも見ることも苦手です。子どもは大好きで持って帰りたい、家で飼いたいとまで言います。我慢するしかないのでしょうか? (3歳/男児のママ)

A 「自分が見つけた大切なもの」だから手元に置いておきたいという気持ちの表れだと思います。生き物は、飼育が可能な場合を除いてその場に放してあげるのが基本です。

子どもの気持ちを大切にしつつ、「持ち帰って、どうしたい?」と子どもに尋ねてみましょう。どうしても飼いたいという場合、虫であれば「連れ帰って、大好きな場所から離してしまうことは虫さんにとって嬉しいことかな?」「お父さんやお母さん、お友達がたくさんいる今の場所から連れて行ってしまおうと思うかな?」などの問いかけをしてみましょう。

虫に限らず、石や砂なども子どもにとっては大事な「宝物」です。家で保管できるならば持ち帰るという方法もあります。しかし子どもの興味は移ろいやすいので、いつしか家の隅に転がっているようなことがあれば、そっと元の場所に戻してあげると良いでしょう。

あそびの効果 ● 物を丁寧に扱う ● 物を大切に育む心育て

たからものボックス

拾った自然物は子どもたちにとっては「たからもの」です。大事な宝物をしまう箱を準備しましょう。

宝箱は、牛乳パックや空き箱、ペットボトルを半分にした底の部分など、手を入れやすいものであれば何でも構いません。底に綿を敷きます。



1 「赤い葉っぱ」「四角いもの」などのお題を出して身近な自然を探します。

2 見つけた自然物を宝箱に入れます。

綿を湿らせると葉っぱなどの乾燥が遅くなります。

3 慣れてきたらお題を決めずに、子どもたちの好きな自然物を探して宝箱にしまってみましょう。



Q 近ごろ、「感性を育てる」と耳にするようになりましたが、どういうことで育てられるのでしょうか。どういう経験をさせてあげるのが良いですか? (4歳/女児のパパ)

A 感性は、子どもが日常生活の中で多様な経験を通して生まれる心の動きと言えます。自然との関わりを通して感性を育てるためには、日常的な「体験の機会」を作ることとできるだけ多様な感覚(五感)を通じた経験となることが大切です。

子どもたちは毎日の暮らしや自然との出会いの中で、驚きと感激に満ち溢れ、色や形には同じものが一つとしてないと言っても良いくらい多彩な自然の姿も目にしています。親が「なんだ石か」「なんだ葉っぱか」という気持ちではなく、石1個、葉っぱ1枚に対しても、見て、触れて、時に匂いを嗅いで…五感を使って親子で自然の発見を楽しんでみましょう。また子どもは、身のまわりの出来事や自然などに触れて心を動かし、それを子ども同士や大人と伝え合うことで表現が磨かれていきます。登園、降園の道すがら親子でゆっくり道端の自然を感じてお話をしてみてください。

身近な自然から感性を育てる親子の時間

ゆっくり散歩!

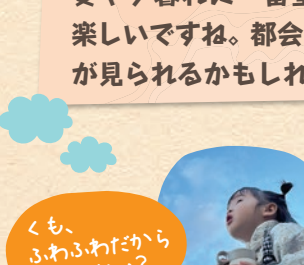
目的地に行くことが目的ではなく、子どもにも大人にもワクワクする自然のものを探しながら歩くことが目的のお散歩。ゆっくり歩きながら目を向けることで、いくつかの自然に出会えるでしょうか。

雲をみてもみよう!

日中でも夕方でも、空を見上げてみましょう。青空や曇り空、夕焼けに浮かぶ雲は何の形に見えるかな? 雲だけでなく、空を飛ぶ鳥の姿や夕暮れに一番星を探すのも楽しいですね。都会でもコウモリが見られるかもしれません。



どんぐりさんあるかな?



くも、ふわふわだからのぼれない?



専門家の声 VOICE



かんた ひろあき 神田 浩行先生

楽習保育® みどりの遊び場/ピオトープアドバイザー

最近ではキャンプや外遊びが流行り、自然豊かな環境の中に出かける機会が多くなっているようです。子どもたちが大きな自然に触れることは、自然の大きさや美しさ、時に怖さも感じ取れる大切な機会になります。その一方で、「イベント」としてキャンプや大自然に入ることは、子どもたちに「自然はイベント」「遠くにあるもの」といった、誤ったメッセージを伝えることにもなります。

自然は身の回りには少ないと思われるかもしれませんが、見渡してみると街には街路樹や生垣、公園の樹木、いわゆる雑草といわれる野草や園芸種の草花など、多くの植物を見ることができます。そしてそこにはチョウやカナブンなどの小さな昆虫、木の実を求める鳥たちがついで、地面にはダンゴムシやアリなど土に暮らす生き物も見ることができます。街の中にある自然との出会いにも、自然の面白さや不思議さが詰まっています。遠く自然に出かける体験と同じように、足元の自然にも目を向けられると良いと思います。遠くの「豊かな自然に触れる」体験だけでなく、身近所で「豊かに自然に触れる」体験もその後の子どもたちの育ちや自然観に大きな影響を与えます。登降園時、お休みの日などにお子さまと一緒に小さな草花や生き物たちと豊かに触れ合ってみましょう。